

統計データから

我が国における有機 JAS ほ場と農産物の現状

世界の有機農業の取組面積は過去15年間で約3倍に拡大し、2022年では約96.4百万ha、全耕地面積に対する有機農業取組面積割合は約2%となっており、ここ10年程度は永年草地の拡大が顕著となっている。

我が国では、みどりの食料システム戦略のもと、2050年までにオーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大することを目指している。農林水産省によると、有機農業の取組面積は2012年の2.05万haから、2022年には3.03万haと10年で48%増加し、耕地面積に占めるその割合は0.7%となっており、世界の水準には及ばないものの拡大傾向にある。

特に、有機JAS認証取得面積は、2012年～22年の10年間で0.99万haから1.86万haと90%増加している。地目別

にみると、牧草地が35.6%、普通畑が34.1と全体の7割を占めている。次いで水田が18%、茶畑が8.2%、樹園地が3.4%となっている（表-1）。

我が国の有機食品の市場規模は、2022年では2,240億円と推計（消費者アンケート）されており、国内で有機JAS認証を取得した農産物は年間約8万1千tで、野菜が68%、米は12%となっている。国内の農産物総生産量のうち有機農産物が占める割合は、野菜が0.39%、米や麦、果実は0.1%程度であるが、茶は5%を超えており、大豆は0.45%となっている（表-2）。

なお、海外から日本に輸入される有機農産物は年間約5万t（国内格付け数量の約6割）で、大豆、果実及びコーヒー生豆が約7割を占める。（K.O）

表-1 国内における地目別有機JASほ場の面積

区分	合計	田	普通畑	樹園地	牧草地	茶畑	その他
面積 (ha)	18,589	3,352	6,343	624	6,618	1,522	130
割合 (%)	100	18.0	34.1	3.4	35.6	8.2	0.7

表-2 国内の総生産量に対する有機JASの割合

区分	野菜	果実	米	麦	大豆	緑茶（荒茶）
総生産 (t)	14,232,000	2,645,000	8,073,000	1,210,000	243,000	699,000
格付数量 (t)	55,442	2,751	9,318	1,420	1,084	4,110
有機JAS割合 (%)	0.39	0.10	0.12	0.12	0.45	5.88